

# 米国農務省穀物等需給報告(2022年2月9日発表のポイント)

令和4年2月10日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、2月9日(現地時間)、2021/22年度の10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

ー2021/22年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

(※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億8,408万トン(対前年度比 2.5%増) ↓
- ② 消費量: 27億9,012万トン(対前年度比 2.0%増) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億9,154万トン(対前年度比 0.8%減) ↓  
期末在庫率: 28.4%(対前年度差 0.8ポイント減) ↓

### 【主な品目別の動向】

**小麦** : 世界の生産量は、イラク、シリアで乾燥の影響から引き下げられ、前月から下方修正されたものの、史上最高となる見通し。世界の消費量は、小麦価格がとうもろこしより割高のため中国の消費量は引き下げられたが、カナダでの消費量の引き上げが上回ったため、前月から上方修正され、史上最高の見通し。世界の生産量は、消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 7億7,642万トン(対前年度比 0.1%増) ↓…EU、ウクライナ、英国、アルゼンチン、中国等で増加、カナダ、ロシア、米国、カザフスタン等で減少
- ② 消費量: 7億8,808万トン(対前年度比 0.7%増) ↑…EU、インド等で増加、中国で減少
- ③ 期末在庫量: 2億7,821万トン(対前年度比 4.0%減) ↓…米国、カナダで減少(前月に比べカナダで下方修正)  
期末在庫率: 35.3%(対前年度差 1.7ポイント減) ↓

**とうもろこし**: 世界の生産量は、フィリピンで引き上げも、ブラジルで夏とうもろこしの単収見通しを引き下げ、パラグアイで高温乾燥の影響で引き下げられたことから、前月から下方修正されたものの、史上最高となる見通し。世界の消費量は、前月から下方修正されたものの、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。なお、米国の需給については、1月見通しから変更はなかった。

- ① 生産量: 12億535万トン(対前年度比 7.3%増) ↓…ブラジル、米国、中国、ウクライナ、EU、アルゼンチン等で増加
- ② 消費量: 11億9,517万トン(対前年度比 5.1%増) ↓…中国、米国、カナダ、ブラジル、EU等で増加
- ③ 期末在庫量: 3億222万トン(対前年度比 3.5%増) ↓…米国、中国等で増加  
期末在庫率: 25.3%(対前年度差 0.4ポイント減) ↓

**コメ(精米)** : 世界の生産量は、ブラジルで引き下げられたものの、パキスタンとバングラデシュで引き上げられたことから、前月から上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量も史上最高となる見通し。世界の生産量が消費量をわずかに下回り、世界の期末在庫量は前年度をわずかに下回る見通し。

- ① 生産量: 5億1,031万トン(対前年度比 0.6%増) ↑…インド等で増加
- ② 消費量: 5億1,040万トン(対前年度比 1.5%増) ↑…中国、インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億8,633万トン(対前年度比 0.0%減) ↑…インド等で増加、中国等で減少  
期末在庫率: 36.5%(対前年度差 0.6ポイント減) ↑

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、南米の干ばつで、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンで生産量が引き下げられたことから前月から下方修正された。世界的な供給減と価格上昇により、中国の搾油需要と輸入量が引き下げられたが、世界の消費量は前年度を上回る見通し。世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 3億6,386万トン(対前年度比 0.6%減) ↓…米国等で増加、ブラジル、パラグアイ、中国等で減少(前月に比べブラジル、パラグアイで下方修正)
- ② 消費量: 3億6,917万トン(対前年度比 1.8%増) ↓…米国、中国等で増加(前月に比べ中国で下方修正)
- ③ 期末在庫量: 9,283万トン(対前年度比 7.6%減) ↓…ブラジル、アルゼンチンで減少  
期末在庫率: 25.1%(対前年度差 2.5ポイント減) ↓

# 世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年2月9日発表)

## 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	(予想)	2021/22		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		2,678.13	2,717.10	2,784.08	2.5%	▲ 4.4	2,295.8
消費量		2,672.66	2,734.44	2,790.12	2.0%	▲ 1.6	2,284.5
期末在庫量		814.92	797.58	791.54	▲ 0.8%	▲ 2.5	479.9
期末在庫率		30.5%	29.2%	28.4%	▲ 0.8	▲ 0.1	21.0%
<b>小麦</b>							
生産量		762.17	775.87	776.42	0.1%	▲ 2.2	660.5
消費量		746.73	782.54	788.08	0.7%	0.6	680.0
期末在庫量		296.54	289.87	278.21	▲ 4.0%	▲ 1.7	181.1
期末在庫率		39.7%	37.0%	35.3%	▲ 1.7	▲ 0.2	26.6%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,417.08	1,433.77	1,497.36	4.4%	▲ 2.7	1,159.1
消費量		1,432.18	1,449.17	1,491.64	2.9%	▲ 2.3	1,139.5
期末在庫量		336.69	321.29	327.00	1.8%	▲ 1.1	175.8
期末在庫率		23.5%	22.2%	21.9%	▲ 0.2	0.0	15.4%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		1,119.59	1,123.07	1,205.35	7.3%	▲ 1.6	898.8
消費量		1,135.61	1,137.37	1,195.17	5.1%	▲ 1.0	877.4
期末在庫量		306.34	292.05	302.22	3.5%	▲ 0.9	144.8
期末在庫率		27.0%	25.7%	25.3%	▲ 0.4	▲ 0.1	16.5%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		498.87	507.46	510.31	0.6%	0.4	476.2
消費量		493.75	502.74	510.40	1.5%	0.1	465.0
期末在庫量		181.70	186.42	186.33	▲ 0.0%	0.3	123.0
期末在庫率		36.8%	37.1%	36.5%	▲ 0.6	0.0	26.5%

## 【大豆】

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	(予想)	2021/22		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		339.88	366.23	363.86	▲ 0.6%	▲ 8.7	269.0
消費量		358.36	362.70	369.17	1.8%	▲ 5.8	265.2
期末在庫量		95.60	100.42	92.83	▲ 7.6%	▲ 2.4	58.1
期末在庫率		26.7%	27.7%	25.1%	▲ 2.5	▲ 0.2	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 9, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

## 米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年2月9日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22 (予想)	2021/22		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		417.89	429.86	449.59	4.6%	-	353.0
消費量		355.75	351.02	359.20	2.3%	▲ 0.1	317.1
輸出量		79.82	107.45	94.55	▲ 12.0%	▲ 0.4	51.6
期末在庫量		80.73	58.40	60.32	3.3%	0.6	44.2
期末在庫率		18.5%	12.7%	13.3%	0.6	0.1	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		52.58	49.75	44.79	▲ 10.0%	-	61.3
消費量		30.44	30.48	30.84	1.2%	▲ 0.1	37.8
輸出量		26.37	26.99	22.05	▲ 18.3%	▲ 0.4	27.5
期末在庫量		27.99	23.00	17.63	▲ 23.3%	0.5	19.5
期末在庫率		49.3%	40.0%	33.3%	▲ 6.7	1.3	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		359.43	372.89	398.71	6.9%	-	285.3
消費量		320.73	315.70	323.75	2.5%	-	275.5
輸出量		50.46	77.48	69.75	▲ 10.0%	-	20.7
期末在庫量		51.83	34.01	41.63	22.4%	-	23.5
期末在庫率		14.0%	8.6%	10.6%	1.9	-	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		345.96	358.45	383.94	7.1%	-	273.2
消費量		309.55	306.54	315.23	2.8%	-	263.0
輸出量		45.13	69.92	61.60	▲ 11.9%	-	18.5
期末在庫量		48.76	31.36	39.11	24.7%	-	20.9
期末在庫率		13.7%	8.3%	10.4%	2.0	-	7.4%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		5.88	7.22	6.09	▲ 15.7%	-	6.3
消費量		4.59	4.85	4.62	▲ 4.7%	-	3.8
輸出量		2.99	2.98	2.76	▲ 7.4%	▲ 0.0	3.4
期末在庫量		0.91	1.39	1.06	▲ 23.7%	0.0	1.2
期末在庫率		12.0%	17.8%	14.4%	▲ 3.4	0.2	16.1%

### 【大豆】

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22 (予想)	2021/22		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		96.67	114.75	120.71	5.2%	-	82.8
消費量		61.85	61.05	63.47	4.0%	0.7	48.6
輸出量		45.70	61.52	55.79	▲ 9.3%	-	36.1
期末在庫量		14.28	6.99	8.84	26.5%	▲ 0.7	3.8
期末在庫率		13.3%	5.7%	7.4%	1.7	▲ 0.6	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 9, 2022)

「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

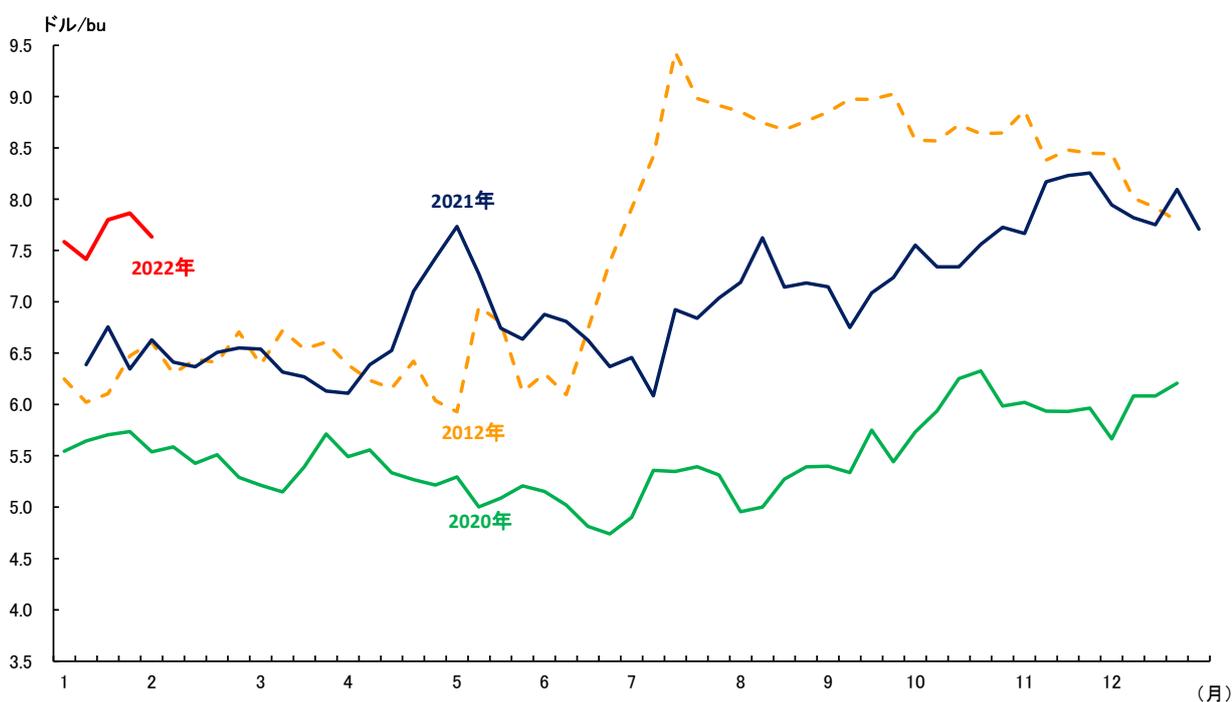
(参考1)

## 世界の穀物の価格動向（2022年）

● 小麦：7.63ドル/bu（前年同時期の価格：6.41ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2022年2月第1週末のセツルメント価格）

2022年1月に入り、アルゼンチン産小麦の豊作や、米国産冬小麦の作付面積が市場予想を上回ったこと、USDA 1月需給報告で世界の期末在庫量が市場予想を上回ったこと等から7ドル/bu台半ばまで下落した。その後、乾燥が続いていた米国中西部の寒波の影響懸念や、ロシア、ウクライナの政治的緊張等から8ドル/bu台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報やドル高から、1月下旬現在、7ドル/bu台半ばで推移。

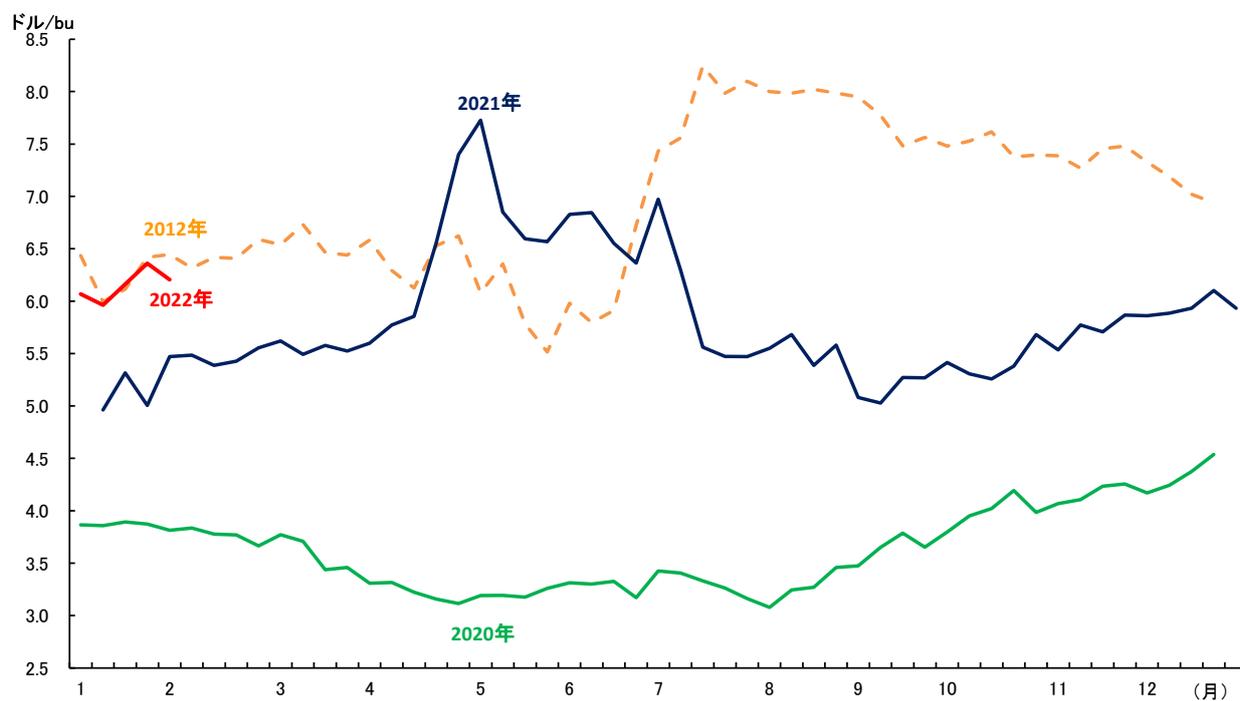


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：6.21ドル/bu（前年同時期の価格：5.49ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2022年2月第1週末のセツルメント価格）

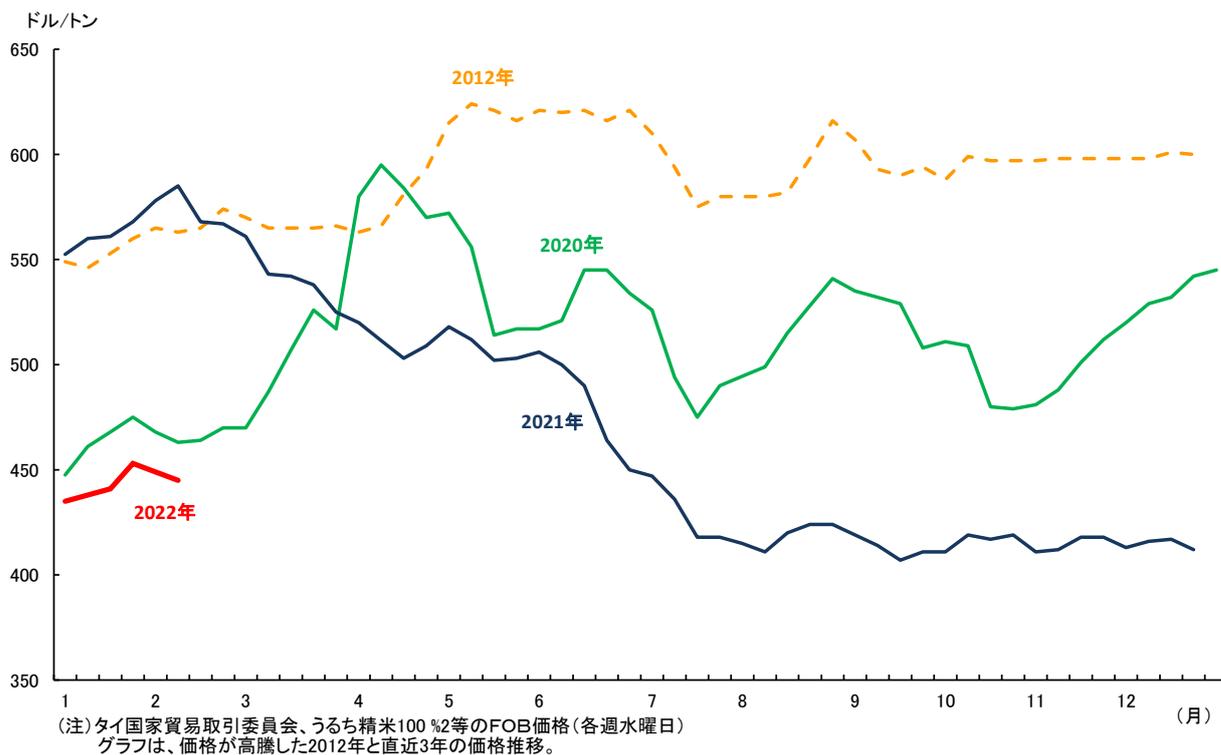
2022年1月に入り、南米の乾燥懸念から6ドル/buまで値を上げたものの、南米の短期的な降雨予報等から5ドル/bu台後半に値を下げた。その後、原油価格の上昇、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から値を上げ、1月下旬現在、6ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

●コメ： 445 ドル/トン（前年同時期の価格：585 ドル/トン）  
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2022 年 2 月の第 2 水曜日の FOB 価格※）  
 ※2022 年 2 月第 1 水曜日の価格は未公表

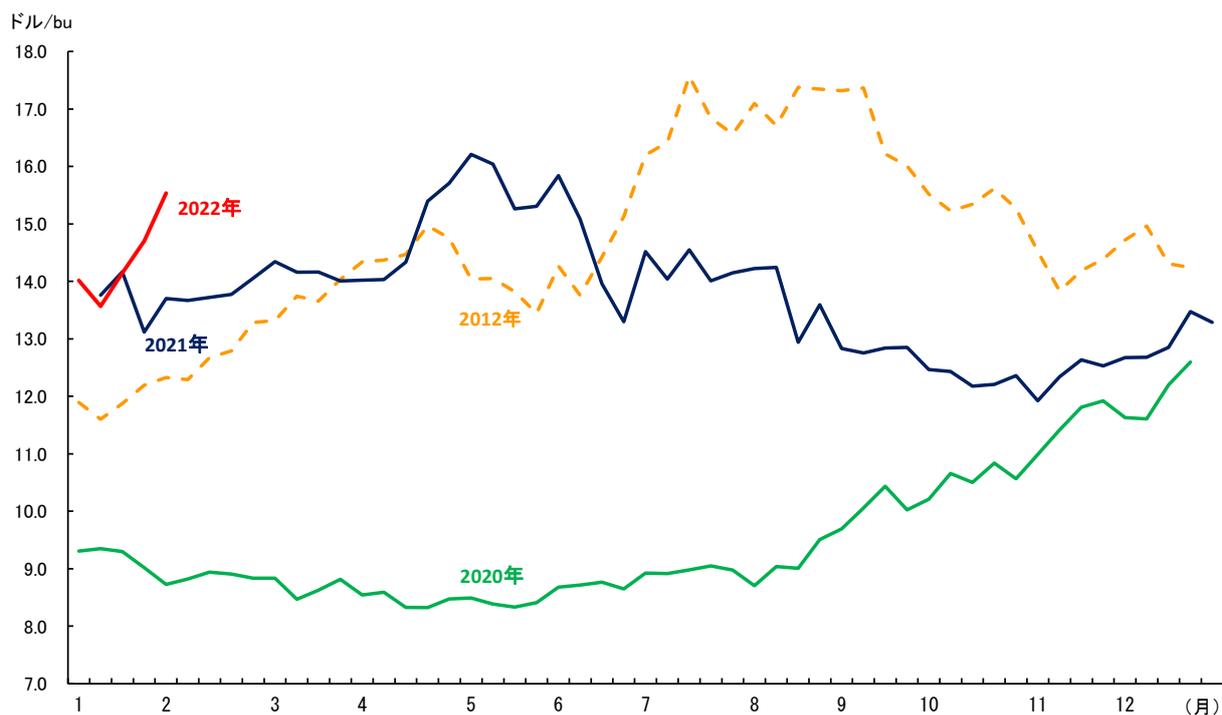
2022 年 1 月に入り、アフリカを始めとした国際市場におけるタイ米への強い需要やパーツ高等により値を上げ、1 月下旬現在、450 ドル/トン台前半で推移。



● 大豆：15.54ドル/bu（前年同時期の価格：13.67ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2022年2月第1週末のセツルメント価格）

2022年1月に入り、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から1月上旬に14ドル/bu台前後まで値を上げたものの、南米の短期的な降雨予報等から13ドル/bu台半ばまで値を下げた。その後、再び南米の乾燥懸念の高まりや南米の生産量の減少見通しから値を上げ、1月下旬現在、14ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
108.99	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83							

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行: 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
45.01	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23							

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」  
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

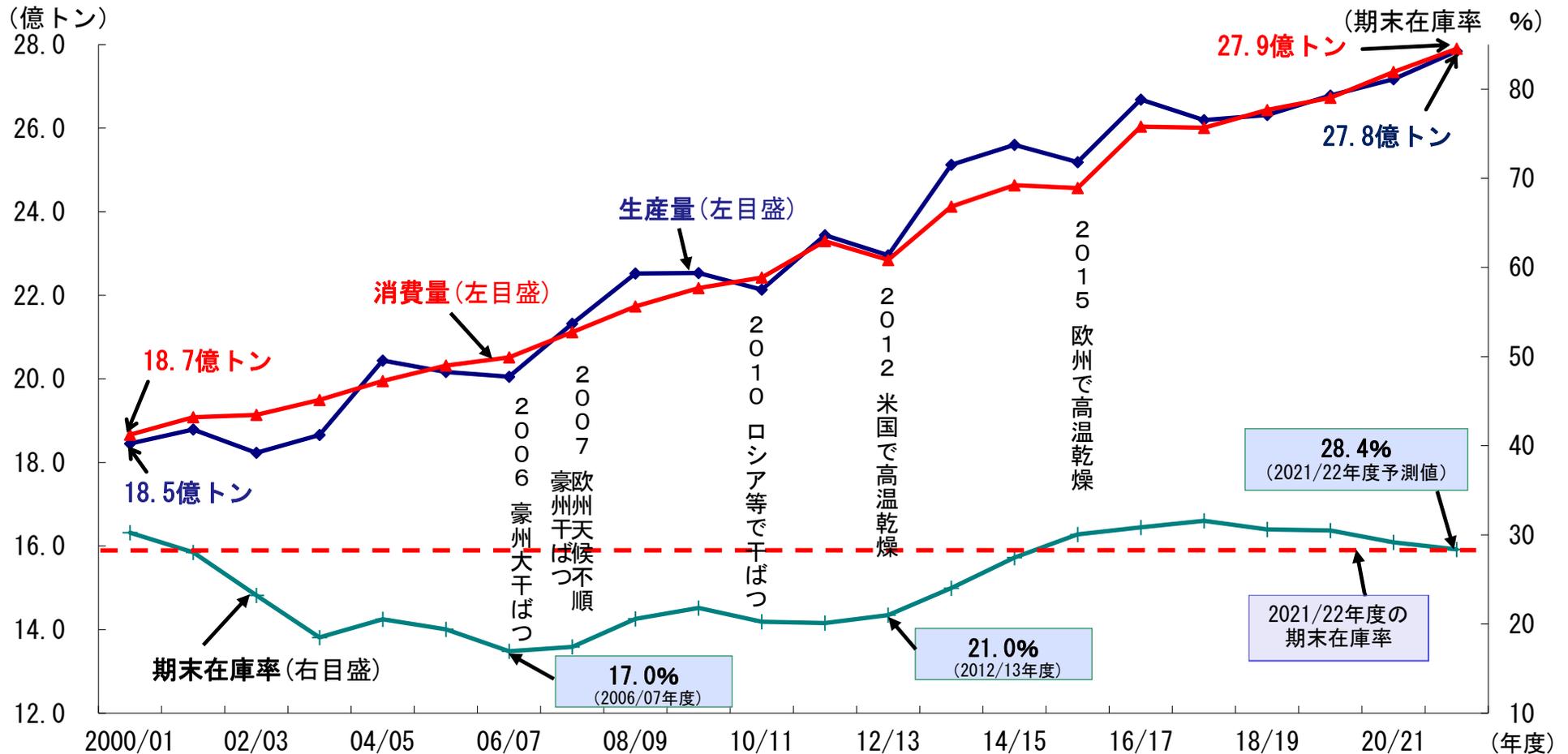
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
57.03	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	83.22							

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和4年1月, 120頁  
但し、2022年1月 は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

## 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.4%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 2022)、「PS&D」  
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。